

ひがしゆげ ゆげでら 東弓削遺跡（由義寺跡）の発掘調査（遺構確認調査）

現地説明会資料

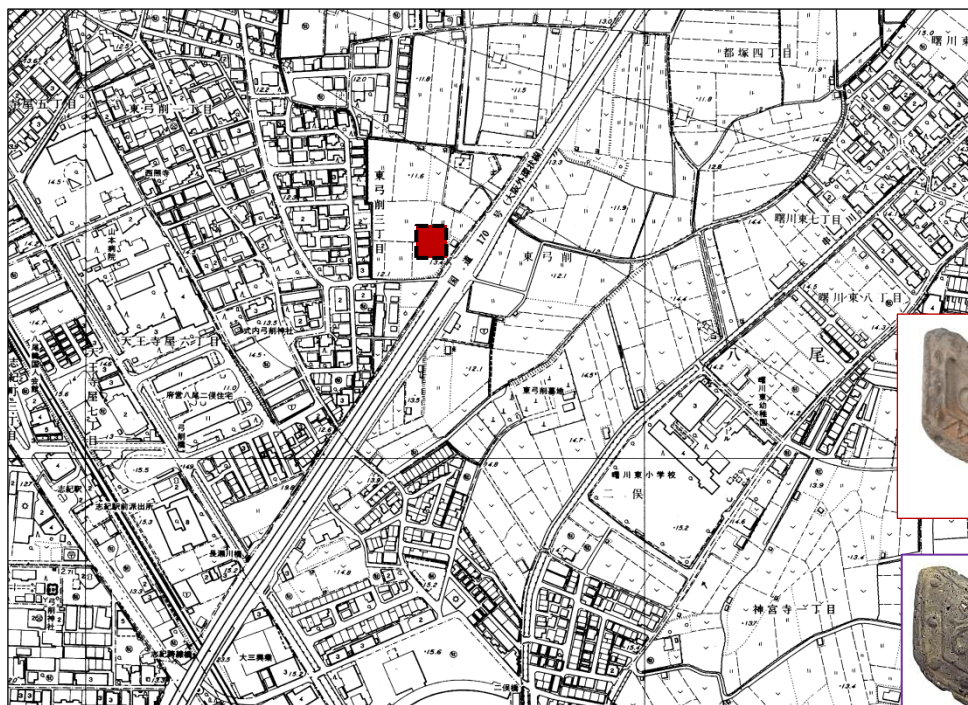
八尾市教育委員会・公益財団法人八尾市文化財調査研究会

平成 29 年 2 月 11 日（土）

1. 調査の成果

平成28年9月に東弓削遺跡（八尾市東弓削3丁目）において、由義寺に関連すると考えられる奈良時代後期の瓦が多量に出土しました。その後、平成28年11月から北東の隣接地において、寺院の遺構確認のための調査を行った結果、瓦の集積の広がりとは一辺約20m（天平尺で約68尺）の正方形の塔の基壇を確認しました。塔の基壇は、平城京にある東大寺東塔の24m（約80尺）に次ぎ、大安寺の約21m（約68尺）や諸国の国分寺に匹敵する大きさで、東大寺や大安寺と同様に七重塔であった可能性が高いと考えられます。

今回の調査で、日本の正史である『続日本紀』の770年のところに記されていた称徳天皇と道鏡が建立した由義寺の場所が明らかになりました。さらに称徳天皇がこの地に置いたとされる幻の都「由義宮（西京）」を考える上でも重要な発見です。



今回の発掘調査の場所（■が塔の位置）



出土瓦（上から興福寺式軒丸瓦、同軒平瓦、東大寺式軒平瓦）

2. 塔基壇について

【基壇の特徴】基壇は、粘質土と砂質土の薄い層を交互に突き固めた「版築^{はんちく}」という工法で築かれていました。基壇を飾る外装施設の地覆石^{じふくいし}や羽目石^{はめいし}などは抜き取られていましたが、凝灰岩^{ぎようかいがん}の破片を含む溝の位置から、一辺約20mの正方形であったことがわかりました。



塔基壇の版築（一部）

残念ながら、塔の中心柱を支えた塔心礎^{とうしんそ}をはじめとする礎石^{そせき}は失われていましたが、後世に掘られた穴の中から、四天柱^{してんぼしら}あるいは側柱^{がわぼしら}の礎石と推定される大きさ1.3m×1.0m、厚さ0.5mの石が出土しています。また、基壇中央部では、基壇を強固にするために30～60cm大の石を入れた「掘込地業^{ほりこみじぎよう}」を確認しています。

【おもな出土品】掘込地業の石の間から、和同開珎^{わどうかいちん}（初鑄708年）16枚、萬年通寶^{まんねんつうほう}（初鑄760年）1枚、神功開寶^{じんぐうかいほう}（初鑄765年）1枚、佐波理碗^{さばりわん}の破片が出土しています。寺院建立に際して、地鎮^{じちん}のために埋められた「鎮壇具^{ちんだんぐ}」の一部です。



和同開珎（初鑄 708 年）



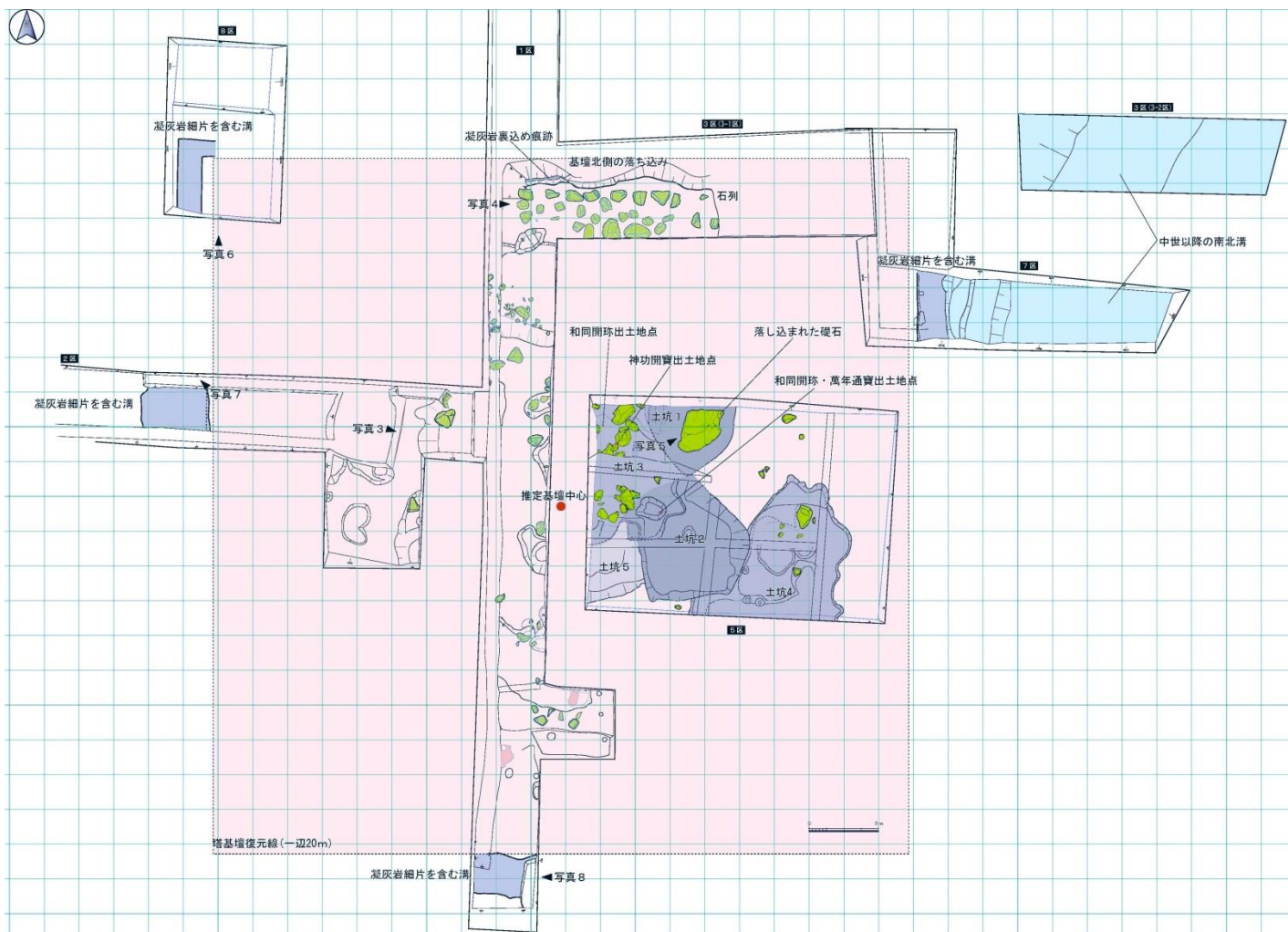
萬年通寶（初鑄 760 年）



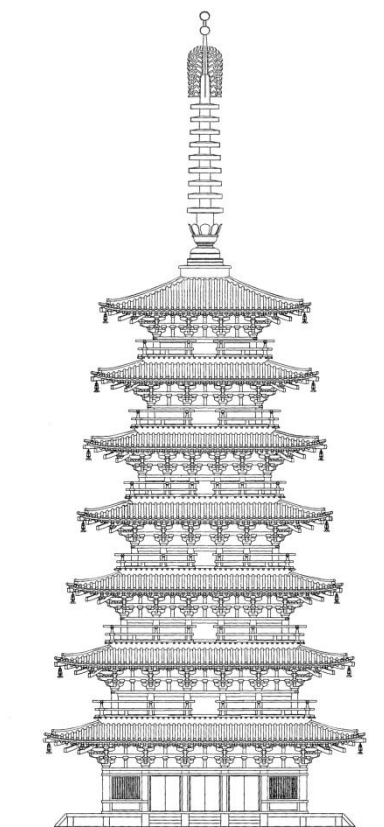
神功開寶（初鑄 765 年）

出土瓦の多数を占める東大寺式と興福寺式のうち、東大寺式は西大寺の瓦に似ていますが、同範^{どうはん}の資料はなく、由義寺のために造られた可能性があります。また、四天王寺（大阪市）で使われた瓦や金寺山廃寺^{かなでらやま}（豊中市）と同範の瓦も出土しています。

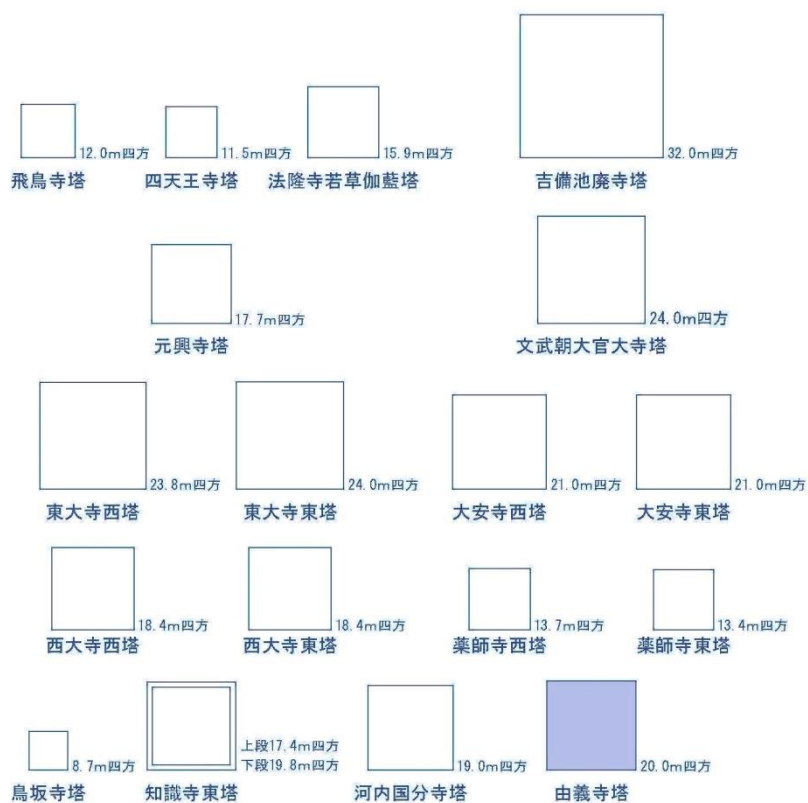
【塔が倒れた理由】基壇周辺から出土した瓦や凝灰岩の切石、壁土などは、火を受けた痕跡がみられます。また、焼けて割れていますが、塔の頂部に立てられた「相輪^{そうりん}」の一部である「伏鉢^{ふくぼち}」か「請花^{うけばな}」とみられる直径約90cmに復元できる銅製品も出土しています。これらのことから、時期は不明ですが、塔が火災で焼け落ちたことがわかります。



由義寺跡 塔基壇平面図



七重塔のイメージ（東大寺七重塔復元図）
（箱崎和久 2004「東大寺七重塔考」より）



主要古代寺院の塔基壇の比較

3. 称徳天皇と道鏡

称徳天皇（当時は孝謙^{こうけん}上皇）は、761年の近江国保良宮^{ほらのみや}（滋賀県大津市）への行幸^{ぎょうこう}の際、道鏡の治療をうけ、道鏡を重んじるようになりました。その後、道鏡は法王となり、天皇は西大寺や西隆寺の建立、百万塔^{ひゃくまんとう}の製作などの仏教を重視した政策を進めました。

弓削^{ゆげ}の地には3回行幸し、765年に弓削行宮^{のあんぐう}へ、769年に由義宮を「西京」とし、そして、770年の時に由義寺の塔の建設に伴い、関係者に位階を与えています。その同じ年の8月に天皇は崩御し、道鏡は下野薬師寺^{しもつけ}（栃木県下野市）の別当^{べっとう}となり、2年後亡くなりました。

西暦	年号	月	天皇	おもな出来事	平城京寺院関連
742	天平14	12	聖武	「弓削寺僧行聖謹解…」弓削寺の初見史料(正倉院文書)。	
747	天平19	6		「沙弥道鏡」道鏡の初見史料(正倉院文書)。	東大寺大仏鑄造開始。
749	天平感宝元 天平勝宝元	7	孝謙	聖武天皇讓位、阿部内親王が即位する(孝謙天皇)。	東大寺大仏鑄造が完了。
753	天平勝宝5	4		法師道鏡の名で書が残される。	東大寺西塔を建立。
756	天平勝宝8			難波(河内知識寺)行幸(2/24～4/17) 4/15 孝謙天皇帰路「車駕、取渋河路、還至知識寺行幸」知識寺(南)行宮で宿泊。	東大寺大仏殿回廊の建立。 造東大寺司が興福寺に瓦作りの依頼(正倉院文書)。
758	天平宝字2	8	淳仁	孝謙天皇讓位、大炊王が即位する(淳仁天皇)。	
760	天平宝字3				萬年通寶鑄造
761	天平宝字5	10		孝謙上皇、近江国の保良宮に行幸(道鏡、看病禪師となる)。	
763	天平宝字7	9		道鏡を少僧都とする。	
764	天平宝字8	9		道鏡を大臣禪師とする。	孝謙上皇が西大寺建立を發願。 東大寺東塔を建立。
		10	称徳	淳仁天皇を廢して、孝謙上皇が重祚する(称徳天皇)。	
765	天平神護元			第1回河内行幸(10/29～閏10/3の5日間) 10/29 紀伊の国行幸の帰路に弓削行宮に立ち寄り、五位以上の貴族に衣を与える。 10/30 弓削寺に礼仏し、同寺の庭で唐・高麗樂を奏する。 閏10/1 弓削寺に食封二百戸、知識寺に五十戸を与える。 閏10/2 弓削行宮において道鏡を太政大臣禪師に任命し、文官百官にも道鏡を拝させる。その後、弓削寺に礼仏し、唐・高麗樂および黒山企師部舞を奏する。この時また道鏡に綿一千屯が施入される。 閏10/8 平城宮環御。道鏡を太政大臣禪師とする。	神功開寶鑄造
766	天平神護2	10		道鏡を法王とする。	
767	神護景雲元				造西大寺司を任命 西隆寺の建設が始まる。
769	神護景雲3	5		道鏡を皇位につけると天下泰平となるという宇佐八幡宮の託宣が伝えられる。	
		9		和氣清麻呂が道鏡即位に反する託宣を持ち帰る。	
				第2回河内行幸(10/17～11/9の23日間) 10/17 天皇、由義宮に行幸。 10/19 天皇、河内の市人を集めて龍華寺で市を開き、五位以上の官人に買物をさせる。 10/30 天皇、由義宮を西京とし、河内国を河内職とする。道鏡の弟、弓削浄人(きよひと)ら道鏡の一族に叙位。 11/9 平城京環御。	
770	神護景雲4			第3回河内行幸(2/27～4/6の39日間) 2/27 天皇、由義宮に行幸。 3/28 由義宮を讀えて、葛井・船・津・文・武生・藏の六氏の男女230人が歌垣を催す。 4/1 河内亮紀朝臣広庭と摂津亮内蔵忌寸若人を造由義宮大官司次官に任命する。 4/5 由義寺の塔の建設に伴い、その労に従って諸司、雑工ら95人に位階が与えられる。 4/6 平城京環御。	
		8		称徳天皇崩御。道鏡を下野薬師寺に送る。 河内職から河内国に戻す。	
772	宝龜3	4		道鏡 下野で没。	

由義寺関連年表